

ひきこもり家族自助会とやま大地の会(設立 2001 年 3 月)

振込先 北陸労働金庫 富山南支店 普通 3414428 とやま大地の会

♪ ♪ 例会のおしらせ ♪ ♪



例会は、ミニ講演やグループでの分かち合いの場です。また個別相談(希望者)も行っています。

09 月 19 日 (第 3 土曜日)	第 307 回例会	13 : 30	富山市安住町 5-21 号室 サンシップとやま 701 号室
10 月 17 日 (第 3 土曜日)	第 308 回例会	13 : 30	サンシップとやま 501 号室
11 月 21 日 (第 3 土曜日)	第 309 回例会	13 : 30	サンシップとやま 701 号室
12 月 19 日 (第 3 土曜日)	第 310 回例会	13 : 30	サンシップとやま 501 号室
01 月 16 日 (第 3 土曜日)	第 311 回例会	13 : 30	サンシップとやま 部屋未定

会費 正会員の 2021 年度からの年会費は 2,000 円。例会参加費無料。(振込料は各自負担です。)

非会員の方の、2021 年度からの例会参加費 200 円です。

駐車場について: 会館の地下駐車場があります。

◎富山県ひきこもり地域支援センター、最寄りの厚生センター、保健所、福祉総合相談センター等で相談をしましょう。適切な支援に繋がるよう力を借ります。

◎支援センターに希望すること、親に出来ることを常時募集しています。

◎ご相談があれば、大地の会のホームページからお問い合わせ下さい。

「とやま大地の会」のホームページですが、下記 URL で開設しています。ご覧ください。

<http://toyamadaichinokai.com/>



本会の各事業は、富山県、赤い羽根共同募金の助成を受けて実施しています。

♪ 8 月例会報告

日 時: 8 月 22 (土) 13:30~15:40 サンシップとやま 501 号室

参加者: 20 名 (男性 11 名 {内体験者 5 名}、女性 9 名 {内体験者 1 名}) のご参加がありました。

例会の始めに、保科さんのハーモニカ演奏にあわせ、『我は海の子』『浜千鳥』『コキリコ節』の 3 曲を皆で楽しく歌い、また八尾の「風の盆恋歌」の演奏を聴きました。

I 挨拶・諸連絡 (山岡…米谷代読)

今日は、地元自治会の行事と重なり、運営委員会のみ参加し、例会は残念ながら欠席します。8 月 6 日に県心の健康センターで開催された、「スマイル (親グループ)」に「参加しました。

保健師さんが、フィンランド発祥のオープンダイアログを取り入れた進进行をされ、参加された皆さんが活発に発言されているのが印象的でした。今日の例会、いつも以上に交流を楽しんで帰して下さい。

映画「MY PACE MY SPACE~ひきこもりソーシャルワーク」(ドキュメンタリー/2025 年/58 分) を 10 月例会で、ご参加の皆さまと一緒に鑑賞する準備を進めています。

II いつもの話し合い

全体会での近況報告

- ・子は元気です。今が一番平穏なのかと思っています。「風の盆恋歌」の演奏をしみりと聴き、いずれ自分達がいなくなっていくとの寂しさを感じました。
- ・JYC (若者協同実践全国フォーラム) の全国交流会は、12 月に東京で行われます。自分は分科会「フリンジ」に事務局員として参加します。ネライは「私は私でいいという表現を皆で話しあう」楽しい会です。

- ・(本人) デイケアに毎日元気に通っています。
- ・(父親) 妻は病床上に、娘はひきこもりで一人暮らししています。高齢の私がいなくなった後について心配です。
- ・久しぶりに参加しました。不登校だった息子が30代になり、一般企業で働いています。現在は「ひきこもり」人や家庭をサポートする機関がありますが、当時は大変でした。そういう中で子は運転免許を取り、国家資格も取りました。本人は自分の道を歩んでいます。子が外で活動し、私(母)は、日中、一人で過ごしています。
- ・大地の会で12年間お世話になっています。後半の6年間はハーモニカを皆さんの前で160曲演奏させていただきました。今はこの会に感謝でいっぱいです。
- ・この会で、2年経ちました。息子の成長と幸せを祈っています。
- ・(本人) 久しぶりに参加しました。今日、山岡代表が欠席され、会えないのが寂しいです。
- ・子と一緒に来ました。今は、館内のどこかにいます。本人は今日、外へ出ることができたことが嬉しそうでした。
- ・(本人) 今回で3回目の参加です。B型作業所に週一回通っています。さらに、1日増やせるようにしたいです。
- ・(母) 今回で2回目の参加です。色々聴きたいと思い、参加しました。
- ・子の状況に変化はありません。食事もちんと摂っています。生きようとの気力を持ち続けています。
- ・自分達家族は、行政や支援団体に守られていると思います。そういう中で、今日この会に参加された方々は、子を一番理解され、本人にとっては一番大事な人であります。私は親としてどうしていくべきかを話し合い、何か掴んでいきたいと思っています。



グループ分け

A班(9名、内体験者1名) 『8050問題の分散会』

会員のHさんが親亡き後に手続きすべきことを、『7日以内、10h 日内、14日以内、3ヶ月以内、4ヶ月以内、10ヶ月以内、1年以内、2年以内、5年以内』というようなタイムスケジュールを一覧表の形にして作成してこられたので、それを参加の方に配付し、Hさんに説明していただき、意見交換しました。

- ・自分も終活ノートを作ろうと考えていた。
- ・いい人との出会いとタイミングにめぐまれ就職でき、国家資格もとれた。しかし、本人は、対人・対社会的部分はひきこもり時とそう変わらずいろんなことを引きずっているのでは、出来ないと思うので大変心配。
- ・親亡き後の手続き的を、公正で事務的に支援してもらえる人や機関があればと思う。
- ・成年後見は、契約した担当者が合わない人の場合、生涯契約なので、いいイメージがない。
- ・今後、成年後見制度が変わる。11月の例会では、制度の変更点をテーマに研修会を行う予定です。
- ・何か障害認定を受けていないと、「ひきこもり」だけでは成年後見の対象にならないのではないかと。
- ・障害厚生年金を受給しているが、親亡き後のことを考え、子どもと話し合った。障害手帳をとらないと制度利用ができないことが多いと伝えた。最初いやがったが、最終的には了解して、手帳を取得した。
- ・最後は、いつも、人とのつながりをどうつくっていくかということになってしまう。

B班(11名 内、体験者5名)

- ・(体験者) B型作業所に通いたい、朝礼時の挨拶、休憩時の時間のつぶし方、昼食の視線など考えると、緊張してしまい行けそうにもない。
⇒ 作業所の職員の方は、本人の性格や能力に応じて親切に対応されますので、そういう心配はいりません。休憩も自分の希望にあわせて取れると思います。
- ・役場や医者へ行くにしても、自分はいろんな事が心配で行けないです。
- ・子を医者に診て欲しいが、現状では連れて行けない。何とかしたい。
⇒ まず、親が単独でお医者さんに相談してみてもいい。医師が多忙で空いていない事が多い心配があります。それで今は、リモートで県外の医師に診てもらえる方法もあるそうです。
- ・作業所へは送迎車を利用しています。自分で車を運転していきたく、運転免許を取るまでの事が大変。
⇒ 教習所は親切だと思います。そこで自分の事を相談されたら、優しい指導員の方についてもらえると嬉しいです。
⇒ ご本人の前向きな姿勢が良いですね。
- ・諦めずに少しずつ歩んで行けば、時間が経てば何か良くなって行っていると思います。

Ⅲ その他

- 1 例会では、十分に自分の話が出来ない。言い足りないことなど日常のあゆみなど体験発表をしてみませんか? 約20分間程度を予定しています。

2 投稿欄について

会員の皆様から、“ひきこもりの理解”に関する本の紹介や講演の感想等、募集しています。

富山県ひきこもり地域支援センター からのお知らせ

相談時間：月曜日～金曜日 8:30～12:00、13:00～17:00（要予約）

グループ相談を実施しています。

- ・ **リンク（本人グループ）** 毎週火曜日 10:00～12:00
- ・ **スマイル（親グループ）** 毎月第2木曜日 14:00～16:00

まずはお電話でご相談ください。電話：076-428-0616

場所：富山県心の健康センター内 〒939-8222 富山市蜷川 459-1

令和8年度から、本人グループを“リンク”、親グループを“スマイル”と名付けられました。

IV 高岡つくしの会より（2003年設立）

月例会	9月13日（日）	13:30～	博労公民館
	10月11日（日）、11月1日（日）	13:30～	博労公民館



おとぎの森例会	9月9日（水）	14:00～16:00	おとぎの森こどもの家
	9月26日（土）	14:00～16:00	おとぎの森こどもの家
	10月14日（水）	14:00～16:00	おとぎの森こどもの家
	10月24日（土）	14:00～16:00	おとぎの森こどもの家

V 書籍・論文の紹介：『いじめ後遺症』 斎藤 環 著 岩波新書 2026年8月20日 発行

本書は8月下旬に出版されたばかりで、読んでいる途中ですが、一部を紹介します。（やま）

「はじめに」後半の5行を掲載します。

“本書で私が展開するのは、決して新奇な主張ではありません。いじめの深刻な有害性という国際的な「常識」を、いまこそ日本の「現場」にもしっかりと根付かせていくこと。本書はそのために書かれました。

学校現場でいじめに関わる教員やスクールカウンセラーに、とりわけいじめの被害に苦しむ当事者や家族の方に、本書が活用されることを願ってやみません。”